Metal Skin Panic Pitch Document

Editor Notes

This pitch document appeared on a Japanese auction site last year. While bearing some notable differences in regards to characters and tone, the major plot beats largely match up with the final story as presented in the 1987 OVA, *Metal Skin Panic MADOX-01*.

Similar to the *Omega City 23* pitch document we previously released, I've included scans of the original document in Japanese and English text translated text to match. In addition to mis-matched character names, the order of the pages included don't entirely make sense. I'm honestly not sure if that's indicative of editing errors or if the pages come from two different pitch documents, I've attempted to highlight those errors where possible and retain as much of original formatting as possible while still keeping everything easily readable.

Sean O'Mara
zimmerit.moe

ENGLISH TRANSLATION

Maud Duke
twitter.com/bofadibeppo

EDITING & PREPARATION

Sean O'Mara
zimmerit.moe.

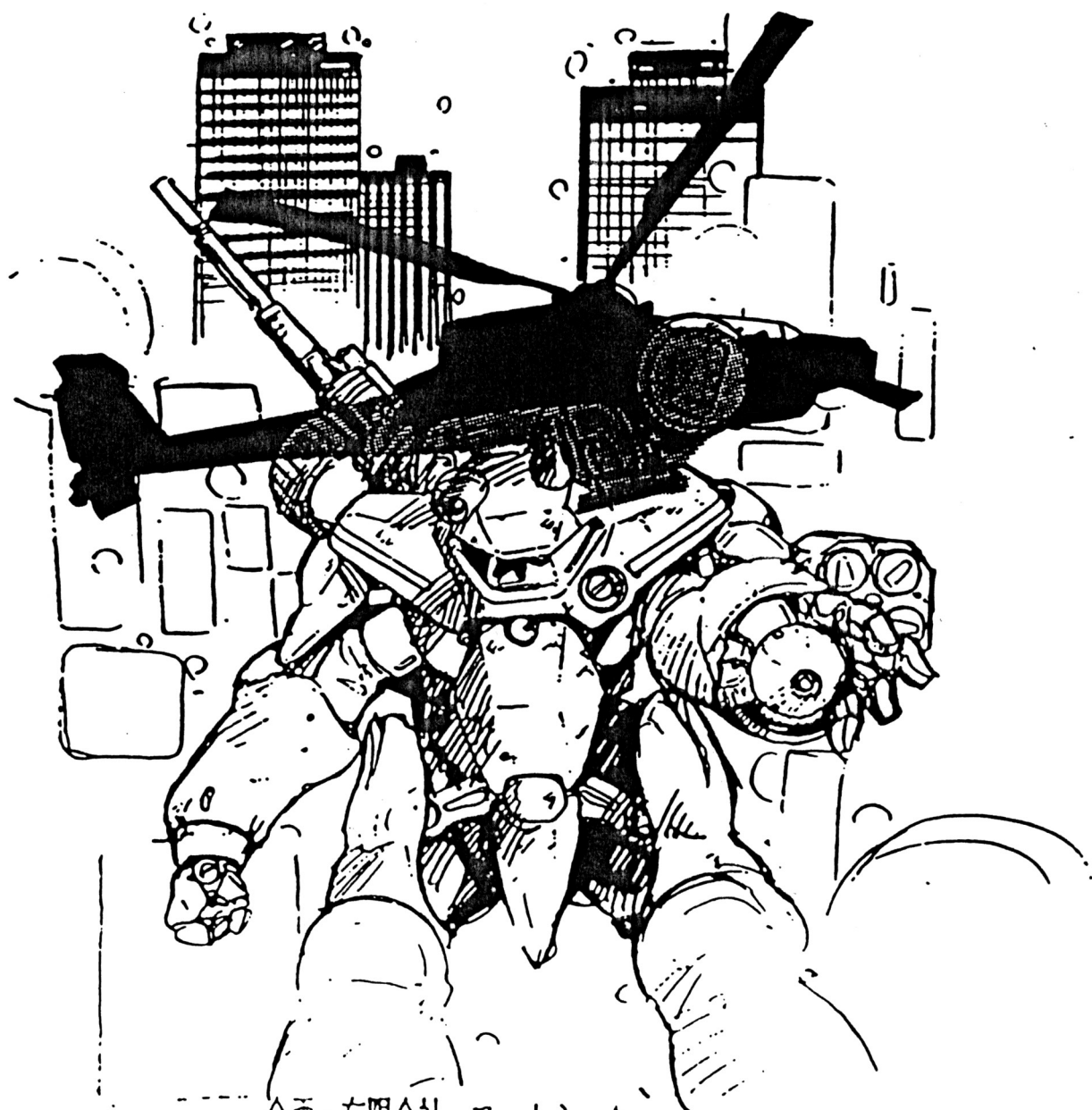
Additional information on ***Metal Skin Panic MADOX-01*** can be found on zimmerit.moe.

Version 1.0.0 / December 2020

企画設定書

METAL SKIN PANIC PART I

メタル スキン パニック

パート I

企画：有限会社 アートミック

「ミリタリーファンタジー」

MILITARY FANTASY

それは、・・・・・・

膨大な軍事的知識を背景にして、

現在、語られるべくして登場した

最新の幻想物語です。

精緻を極め尽くしたメカニックスの描写が

それを操る人間の鼓動とシンクロして

痛快無比なアクションドラマを形成し

人類と機械の

究極の在り方を示唆します。

「メタル　スキン　パニック」は、

オリジナルアニメの行方を決定すべく誕生した

ハイポテンシャルな作品創りを意図し、

企画されました。

〔タイトル〕 METAL SKIN PANIC

「メタル スキン パニック」

〔形　式〕 映画・ビデオアニメ用オリジナル作品

45分 一話完結

〔対　象〕 中学生～大学生中心の一般アニメファン向け

〔ジャンル〕 ミリタリーファンタジー（ハード近未来メカアクション）

〔原　作〕 荒牧 伸志

〔企　画〕 鈴木 敏充

〔制　作〕 アートミック

〈セールスポイント〉

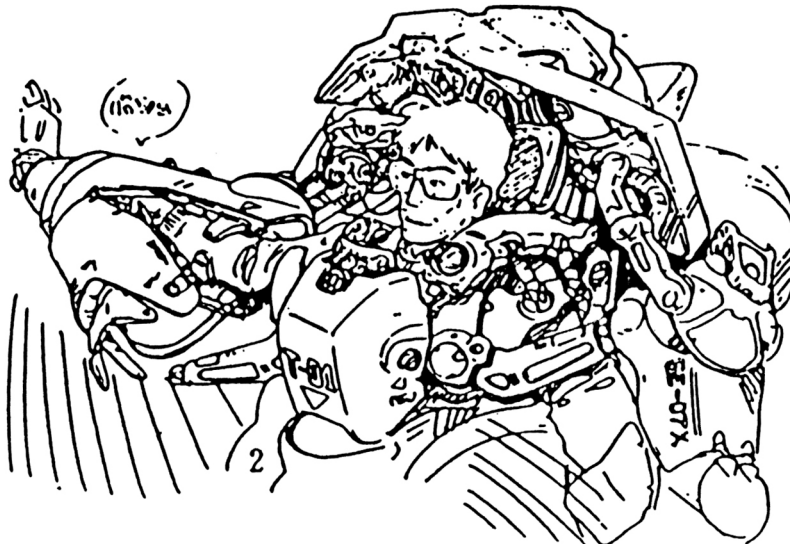
□　精緻なディテールを極めたメカニックスと、現在より半歩先を捉えた、大胆且つ予測可能な世界観の設定。

日本の国情を踏まえて、あえて軍事兵器を生産しなければならなかった政府と、ゴリ押しの無理難題を押しつける大国アメリカの存在。そして、奇妙な物を創造してでも、利益追求をする功利主義の大企業と、創造することにのみ熱中する技術者達の相関関係が物語の舞台背景をシリアスにそして、リアルにします。

□　大都会の浮浪者のような主人公と、任侠道に生きるヤクザ、そして、現代のアダ花．性風俗ギャルの面白くて淋しすぎる人間関係。

人ひとりの思い込みが世の中を「アッ!!」と言わせるマスコミ全盛の時代です。誰もが一寸したきっかけで本企画の〔コウジ〕に変貌する可能性を秘めているからこそ、作品中で、それを象徴的に描くことは痛快な疑似体験のカタルシスを、視聴者に与えられると確信します。

□　何故「歌舞伎町ウォーズ」なのか？　それは、歌舞伎町こそ、人種のるつぼであり、東京一、人間臭い場所だからです。

機動装甲スーツ（パワードスーツ）であるメタルスキンＭＥ－07　〔マドックス０１〕が現実に存在しても、何と無く受け入れてしまう程の人ゴミ、そして、メチャクチャなファッションに流された街、国際間のもめ事を感じさせ無い街、そんな街が新宿であり、歌舞伎町であると、単純に思い込ませてしまう程の描き方をします。

〈ダイジェスト ストーリー〉

□ OPENING（6～7分）

「600万ドルの男」、「バイオニックジェミー」風に、タイトルバックに重ねて、カットバックで、〔TOP　SECRET〕を表示するコンピュータ、及びパワードスーツ（メタルスキン）の開発過程がドキュメントフィルム風に短いカットで写しだされる。

（構成案）　○コンピューターCAD－CAMの様々なデータや設計プログラムが、開発中のパワードスーツの骨組の強度テスト、マニピュレーターの可動テスト、ターゲットを追うセンサー等のショットにOLでかぶってPANして行く・・・。

○そして、試作1号機、開発コードネーム〔ME－07〕の完成。通称メタルスキン〔マドックス・01：MADOX・01〕と呼ぶ。

自衛隊富士演習場（青木ケ原樹海）に仮設された市街地で、政府要人、数人の外人、及び自衛隊のトップクラスが驚嘆して見守る中、屈強な外人が操縦する〔マドックス01〕がデモンストレーション！！

夜、数パーツに分割され梱包されてトラックに積み込まれる〔マドックス01〕。ハイウェイをひた走るトラック。だが、前方を走っていた大型運送トラックの居眠り運転事故に巻き込まれ、大クラッシュ！！〔マドックス01〕はハイウェイの高架から投げ出され、ハイウェイと交差している下の国道を走る廃品回収者のトラックにころがり落ちて偶然乗っかる。そのショックで急停止した廃品トラックの運転手は、ハイウェイの事故の影響と錯覚し、急ぎ仕事をかかえて現場より走り去って行く・・・・。

□ 夜が明けて、次の日、平和な街（吉祥寺）のフカン。この街で、遠く故郷を離れて暮らす、一浪の受験生がいた。アルバイトをしながらなんとか日々を凌いでいるうだつの上がらない男だった。例えば、街を歩けばヤクザにからまれ、アルバイト先では失敗ばかり・・・・。〔無目的な軽い奴〕とは正に彼のことだった。勿論、女の子にはモテる訳がなく、親にも見放されていた。彼の名は〔日野本コウジ〕。彼の生活を支えているものは、いろんなウップンから沸き上がる一本気で衝動的で、単絡的で、そして、何も出来ないマイナスエネルギーであった。（イメージ：フーテンの寅さんの青年版と考えて貰いたい。）〔コウジ〕は、ここ数週間、自動車修理工場でアルバイトをしていた。今日も、彼は廃品パーツを小型トラックに乗せ、江東区小松川にある廃品回収業者〔オノセ〕の解体工場に向かうところだった。

□ 〔オノセ〕は、スクラップ置き場で、梱包をといたバラバラの〔マドックス０１〕を前に思案にくれていた。
「何じゃ、こりゃーっ！！　誰が俺のトラックに乗せたんじゃ？」
民間人の〔オノセ〕に数パーツに解体されたパワードスーツが、ケッタイな物にしか見えない。そこに〔コウジ〕の登場である。

□ 〔マドックス０１〕に興味深々となる〔コウジ〕。産業ロボットまがいの〔マドックス０１〕にかかわりたくない〔オノセ〕。こうして、数十億円もの大金をはたいて国家が超極秘裡に開発完成させたメタルスキン〔マドックス０１〕は、後の災厄を恐れる〔オノセ〕からタダで〔コウジ〕の手に渡って行ったのであった・・・。

□ 数日後、吉祥寺の片隅にあるボロアパートの４帖半の自室にこもりっきりで、難解な組み立てガイドブックを辞書をひきひき解読しては〔マドックス０１〕を組み立てている〔コウジ〕の姿があった。アルバイト先の自動車修理工場から無断で拝借してきた様々な工具、そして、ビニ本、三流週間誌等々・・・・。そこはゴミ溜の様相を呈していた。

□ ロープで吊るした〔マドックス０１〕の上半身、チンプンカンプンの複雑な計器から飛び出ている赤や黄色のコード類・・・・。「何故こんな物が〔オノセ〕の処にあったのか？」「一体誰が何の為に作ったのか？」、そんな疑問が時折〔コウジ〕の頭をよぎったが、それ以上に、アルバイト先をクビになってまで情熱を燃やし、あたかも自作のパワードスーツを飲まず食わずで完成しつつある今の〔コウジ〕に、複雑な背景はいらなかったし、知りたくもなかった。

□ ＭＥ－07メタルスキン〔マドックス０１〕は、無能呼ばわれされて生きてきた〔日野本コウジ〕の生涯のマスターピースなのだ!!

□ 人の迷惑かえりみず、ボロアパートの住民を不眠症にさせながら、彼等の反感を一身に背負って完成させた〔マドックス０１〕。それは、〔コウジ〕の部屋いっぱいもある化物人形だった。胸いっぱいの期待と不安感を抱いて〔マドックス０１〕に乗り込み、おそるおそる、スイッチを押す〔コウジ〕。
動いたのだ!!「ＳＦじゃ―っ!!　ＳＦじゃ!!えらいこっちゃ――　」と狂喜する〔コウジ〕。彼はこの瞬間、世界最強の男となってしまったのだ!!

□ 場所は変わって、西新宿の或る超高層ビルの最上階。
深刻な顔つきをした数人の男達が重厚な会議室を占拠していた。
D.I.A.〔ペンタゴン：米国防総省〕の高官と中根首相、そして、産業ロボット生産と半導体のトップメーカーとして知られる河原崎重工業の会長、自衛隊の高官達であった。
「何んたる失態じゃ!!　ＭＥ－07の行方もわからんだと!?　何んとしても見つけ出して回収するのだ――――っ」と英語で叫ぶD.I.A.高官。
〔マドックス０１〕の回収作戦が失敗することは、彼等の死活問題以上に、今や国際間の緊張を破り、戦争を引き起こしかねない事態に発展する可能性さえあったのだ。それが敵国に渡ってしまったら・・・・・・・・!!
「貿易緩和なんてロンの甘言に乗って、とんでもない事になったワイ。それにしても、河原崎の奴、調子に乗ってとんでもない物を作ってくれたものだ!!」と呟く中根首相。プカプカふかす葉巻の煙が虚しい。テーブルの上には、ＭＥ－07メ

タルスキン〔マドックス０１〕の設計図や性能を示したデーター表が広げられていた。

□　さて、超高性能パワードスーツの何んたるかも理解していない〔日野本コウジ〕はゴミ溜めのような部屋（一階）で床を軋ませながら、付属のマニュアルを見ながら計器のテストを繰り返していた。

（構成案）●ACTION BY THINK　（思考操作）の〔マドックス０１〕をできるだけ細かい設定で、リアリティを持たせて内部を描く。

●バイザーグラスに写る情報ディスプレイの様子、視線追尾の機関砲の動き、パワーユニットの回転音、リフトサポートシステムの在り方、サス圧の漏れ方、その音等を〔マドックス０１〕の脱着プロセスに於いてフォローして行く。

□　「こいつさえありゃ、何んだって出来るサ。もう、あいつ等、メタメタにしてやるぞ!!」
〔コウジ〕の頭の中にはターゲットがはっきり絞られていた。彼は以前、アルバイト先で知り合った〔名倉シオリ〕という少女に惚れていたのだ。だが、〔シオリ〕は、今、新宿歌舞伎町で性風俗ギャルとして働いていた。それは、現代っ子〔シオリ〕の自発的な行動であったが純情で世間知らずの〔コウジ〕には、ヤクザな男達に騙されて身を転落させていった悲劇の少女に写っていたのだ。

□　〔コウジ〕の気分は果てし無く高揚していった。彼の独りよがりが最高潮に達した時、その指は〔マドックス０１〕のスイッチＯＮ!!
スラスターノズルが噴射した途端に、ボロアパートは木端微塵にぶっ飛んだ。
そんな光景を尻目に「腹が減っちゃ戦は出来ぬ」とセブンイレブンに、やおら飛び込む〔マドックス０１〕・・・・。気分はもう最高!!　パトカーや消防車のサイレンを聞きながら、勇躍〔マドックス０１〕は歌舞伎町に向けて動き出した。

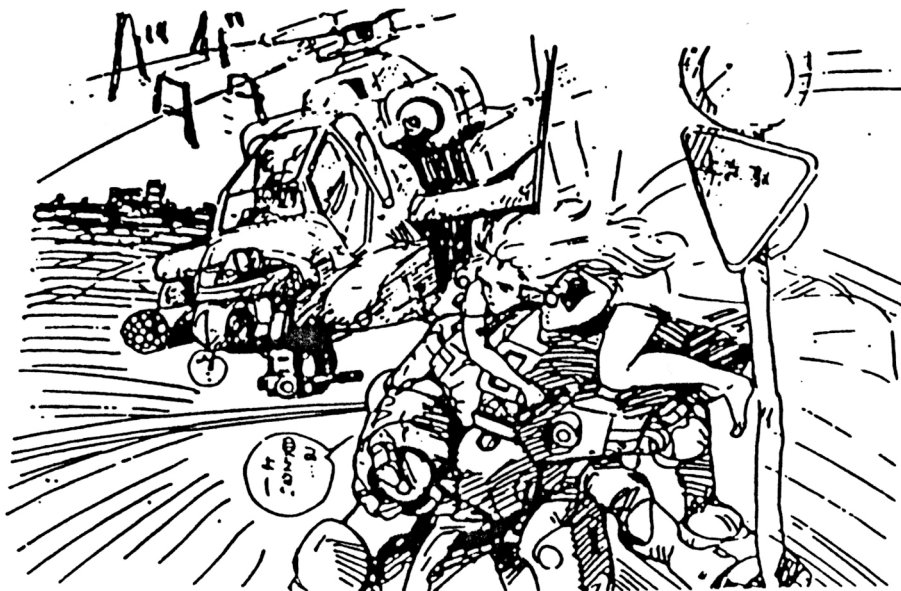
□　試行錯誤の〔コウジ〕の操作にぶったまげ、恐れおののく人々。

地下鉄、地下街、ビルの中、マンションと金魚のフンのようにまとわりつくパトカーさえ、終いには夜の街を逃げ廻る程の暴れようだ。当の〔コウジ〕は外界との唯一連絡がとれる通信器をFEN に合わせている為、ロック音楽のビートに乗っていい気分で破壊しまくっている。

□　そして、いよいよ、新宿歌舞伎町に接近した。煌々と輝くネオンの街。〔マドックス０１〕が人ゴミの中を一見飄々と歩いて行く。
無関心な人々の群れ。「何かなぁ？」とセンサーを覗く者。東京の新宿ではパワードスーツぐらいあったって誰も何も目新しく無いのだ!!

□　「あった!!」〔コウジ〕は、とある風俗営業店の前で〔マドックス０１〕を止めた。一呼吸した〔コウジ〕は再びスイッチＯＮ!!
東映芸能か何かのハリボテロボットだと思っていた群衆がブっ飛んで、〔歌舞伎町ウォーズ〕が華々しく始まったのだ!!

□　店を壊され、その上、売れっ子の〔シオリ〕を連れ去られて、怒ったヤクザの追撃、警官隊、ＴＶレポーターそして、〔マドックス０１〕の前に立ちはだかる河原崎重工の美人科学技師〔楠本エリー〕が操る、試作第２号機ＭＥ－08〔マドックス０２：ＭＡＤＯＸ０２〕の驚異！！
馬鹿な男どもを騙して悠々自適の人生計画を描いていた〔シオリ〕は〔コウジ〕に略奪され、今や〔マドックス０１〕の狭いコクピットの中でクダを巻く・・。

□　コマ劇場のショーをブチ壊し、パチンコ屋を破滅させ、歌舞伎町が、上に下にの大パニック。そして、何時しか、新宿の空を埋め尽くす戦斗ヘリの群れ!!
乞う御期待。〔マドックス０１〕が夜を飛ぶ!!

○トラックの後部がスルスルと開くとモウモウとした白煙と暗がりの中のランプの点滅とともにズイと姿を表す「MADOX ０２」

○自衛隊の戦車や装甲車、パトカーで歌舞伎町を包囲してゆく。

○「MADOX ０２」との戦闘――――――――――

○格闘戦を中心にチェイン・ガンによる射撃戦。八方敗れなコージの戦闘方法と無駄のない戦術的な０２号機の戦いの対比。
しかし、完調なチューニングのされていない０２号機は枝理子のスピードについてこれなくて、苦戦している。しかし、コージもシオリを庇いつつ戦わなくてはいけないので五分である。何よりもコージに有利なのは、マドックスの思考制御システムが次第にコージの思考パターンを解析しフィードバックサポートが完璧になってきた事である。波に乗って戦いまくる（逃げまくる）コージ。あせる枝理子、時間が無いのである。

○最早、歌舞伎町は局地戦のバトルフィールドと化しメタメタになってゆく。弾がきれると標識の鉄柱を折、車のドアをもぎって盾がわりにして、応戦するコージ。逆に０２号機は０１号機を傷付けまいとしているので積極的な攻撃に出れない。しかし、コージがシオリを守る為だけに戦っているのを知って枝理子はマドックスを奪回すればコージとシオリには手をださないと説得。コージも少しづつ理解するようになる。あと一歩でマドックスの暴走を止められそうになる。

○多少捨て身になって説得工作する枝理子。

○うまく説得に応じたかに見えた０１号機のコージだったが・・・・

このあたりのシオリの反応は――――段々戦いに乗ってきてコージに「騙されるな!!」とはっぱをかける・・・・・・・

しかし、――――――あまり醜い女の戦いにならないようにする――――――

キルゴアの率いるアパッチ隊（５～６機）が待ちきれずにいきなり現れる。
もう、ブレーキがきかなく、見境なく撃ちまくるキルゴア中尉。
怒る枝理子、「もう少しだったのに・・・・!!」戦いは、国鉄の線路を越え、西新宿の高層ビル街へ移ってゆく（０２号機との戦闘の途中からでもよい）
高層ビルに飛びのったり、張りついたり、ガラスを割ったり、隣のビルに飛び移ったりと大暴れするコージ。

○アパッチ発進シーン「Appocalypse now 」みたいに朝やけのなかを進軍ラッパをとともに下方ライトを効かせ飛び立って行く。

○現れるシーンはＴＶ局等、ハデなヘリが飛んでいるところに、不気味にインしてくるアパッチ。（燃える新宿を背景にして）

○このあたりでシオリと０２号機をどう扱うか。シオリは何処かに待たせて自分だけ戦いに出て行くか―― このあたりヒロイックに「必ず君を迎えに来るよ」等々。シオリの方も完全にその気になってすがったりする。このあたり、キングコングぽくしても良い。「私が盾になってないと、あなたはやられちゃう!!」
０２号機とは何らかの決着をつけた方がよいかもしれない。

○コージが「MADOX ０１」を除装する気になっていた時点ですでに動けなくなっているか、キルゴアに不意うちをくらってやられてしまうか・・・・

○キルゴアとマドックスの戦いは壮絶を極める。命令も人身保護も無視してただ憎悪の対象として、マドックスを執拗に攻め続けるキルゴアのアパッチ（キルゴアはパイロット席ではなくガンナー席にいる）

○段々スラスターの燃料ペレットが無くなる、マドックス。高層ビルの屋上で追い込まれて行く。弾切れのチェイン・ガンユニット等はその都度投げ棄てて行く。

○最後の賭でアパッチに飛び着くコージ。アパッチにとりつく、振り落とそうとするキルゴア。ロータやエンジンをズボズボと壊し、まっさかさまに落ちて行くアパッチとマドックス。いっしょに地上に激突するかと思うと（もうマドックスはスラスターが効かない）除装してパラシュートをひらくコージ。地上に激突して爆発する抜け殻のマドックスとアパッチ。

○落ちて行くシーンを高層ビルの外壁の非常階段を降りながら目撃し叫ぶシオリ。しかし、パラシュートが開いのを見てほっとして涙を流す。

○（新宿副都心の戦闘あたりで段々と空は白み出してくる。）

○ラストは朝やけの新宿（戦闘後で黒煙が上がっていて、遠くにサイレンの音等聞こえる）をボロボロになったコージとシオリが去って行く。

○事後処理する警察、自衛隊――― エンドタイトルロールにかぶって一枚絵で（モノトーン、報道写真ぽく）
下に報道記事が打ち出される――――マドックス、米軍の事は全て隠蔽されている。

○全て終わって落下のショックで地面を突き破って下水管のような所に横たわるマドックス、ズタボロになって動力も切れている・・・・・ように見えるが突然、〝ボン〟とパイロットランプが点滅しアクチュエーターサーボモーターが唸りだして立ち上がろうとする。バイザーに表示が走るところでＥＮＤ。

〔キャラクター設定〕

日野本　紘二・（ひのもと　こうじ）１９歳

・二度目の大学受験を控えた予備校生。東京で六畳一間のアパート暮らしをしている。
・一流私立大学の理学部を目指しているだけあって、物理・科学方面に詳しい。パソコン等もいじっている。
・アニメや、ＳＦ映画のファンでもあり、ビデオデッキ２台（Beta Pro, F-11）を持っていて、録りだめしたテープは、百本を越える。しかし、ＴＶは、14型のせこいやつしか持っていない。
・メカとか軍用兵器等に関心が深く、空を飛ぶ飛行機を見上げては、いちいち、『横田の C-130ハーキュリーズ』とか『入間の C-1だな』とチェックを入れるのが癖になっている。
・とにかく、思い込みが激しく、MADOX（ マドックス）を手に入れてからだんだん自分に対する自信が沸いてきて、次第に自分の得た力とヒーロー性、正義の戦士と言うイメージに陶酔していく。

名倉　しおり・（なくら　しおり）１７歳

・新宿歌舞伎町のファッションマッサージ『トワイライト・ゾーン』で働く女の子。金儲けの為の仕事と割り切ってしているが、それはそれで結構楽しんでやっている現代っ子。
・風俗関係の仕事をしていることにほとんどこだわりを持っていない、むしろ明るいくらいだが、特にアホという訳でもなく、突然、以外にしっかりしたことを言ったりする。とにかく、捉えどころの無い、くるくる性格の変わる女の子。
・基本的にドラマチックな事件に憧れる部分があって、そういうことに対してはすぐその気になってしまう。

・今回の事件でも、最初は、思い込みの激しい〔コウジ〕の行動を、ただの迷惑だと感じていたが〔コウジ〕のひたむきさと、戦闘の盛り上がりに、気分がのまれてだんだんに、やけくそになってきて、高揚してきて、ついには〔コウジ〕にはっぱをかけるようになる。そのため、のり安い〔コウジ〕は、ますます突っ走って、とんでもない結末を迎えてしまう。　しかし、その後でも、屈託が無く可愛く微笑み、全てを許せてしまう、信じられない女の子。

楠本　エリー・（くすもと　エリー）２１歳

・河原崎重工・特殊開発プロジェクト 044　技術スタッフ。
・MADOX 開発チームの紅一点、女性技術者兼パイロット。
・コンピュータのアビオニクスのソフトウェア開発主任で、才色兼備のスーパーウーマンだが、根っからの技術屋で他の事は今まで全く関心が無かった為、世事に疎い部分がある。
・MADOX の開発に全身全霊を傾けている。MADOX システムを愛していると言っても過言ではない。
・事件が公になる前に無傷でMADOX-01を回収する為、MADOX-02（試作２号機、まだ完成したばかりで、ソフトウェアの調整、兵装関係、駆動関係のバランス調整が済んでいない）を駆って出動する。
・しかし、メタルスキンを傷付けまいとする意識が邪魔をして、どうしても、積極的に攻撃に出られず仕留めるチャンスを何度か逃してしまう。
・だが、完調でないMADOX-02でも、そのコントロール技術は、卓越していて、八方破れの『紘二』の戦法に惑わされること無く次第に追い詰めていく。

エドガー＝ポインター少佐・３５歳

・米陸軍技術将校
・河原崎重工にメタルスキンの技術顧問として派遣されて来ている。

・メタルスキンの開発に当初から加わっている強力な推進者でそれゆえMADOX の兵器的能力・軍事的価値については、知り尽くしている。新宿に出動した日・米両軍の指揮官にメタルスキンの恐ろしさを訴えるがあまり相手にされず、冷やかに動向を見守る。
・「ランボー」「ランボー2」に於けるランボーのグリンベレー時代の上官の様な役どころ。

マックス＝クリューガー中尉・32歳

・横須賀に入港している米海兵隊強襲揚陸艦に所属のAH-64 アパッチ攻撃ヘリコプター部隊の隊長。（スクワァドリーダー）
・ベトナム時代から攻撃ヘリに乗っていた。たたき上げの軍人、実戦だと聞くと頭より先に体で飛び込んで行くタイプ。戦いを心底楽しんでいる。
・"MAD DOG MAX"(狂犬マックス）と呼ばれる。
・冒頭のMADOX のデモンストレーションを見ても、自分達、ヘリ部隊の優位を信じている。MADOX の存在を自分の戦いひいては自分自身の存在を否定する邪魔者と認識し、MADOX 自体を憎んでいる。「ケッ!!チャチな、ゼンマイ野郎だぜ」
・「地獄の黙示録」のヘリ部隊の隊長キルゴア大佐の様な役どころ。

〈主要登場メカニックス〉

○ME－07メタルスキン　〔マドックス０１：MADOX０１〕

米国D.I.A.の要請で、日本の産業ロボ・半導体メーカーが、総力を上げて制作した軍事用パワードスーツ。（外人向き）

○ME－08メタルスキン〔マドックス０２：MADOX０２〕

〔マドックス０１〕の開発と並行して、米国に内緒で開発された自衛隊用の軍事用パワードスーツ。

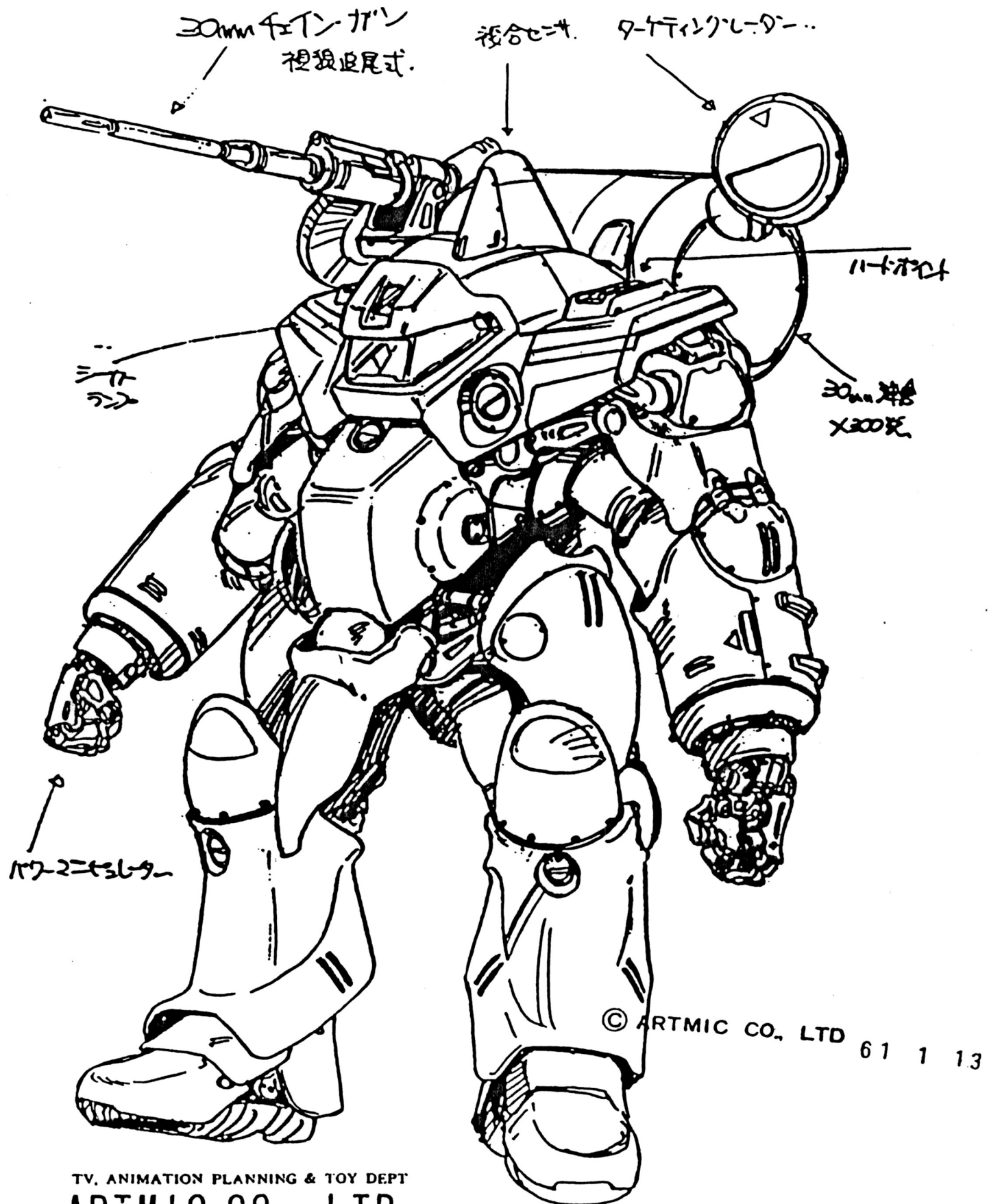
○装甲戦闘ヘリ〔ＡＨ－64アパッチ〕

米軍軍属の戦闘ヘリ。

○７４式戦車

○パトカー・白バイ

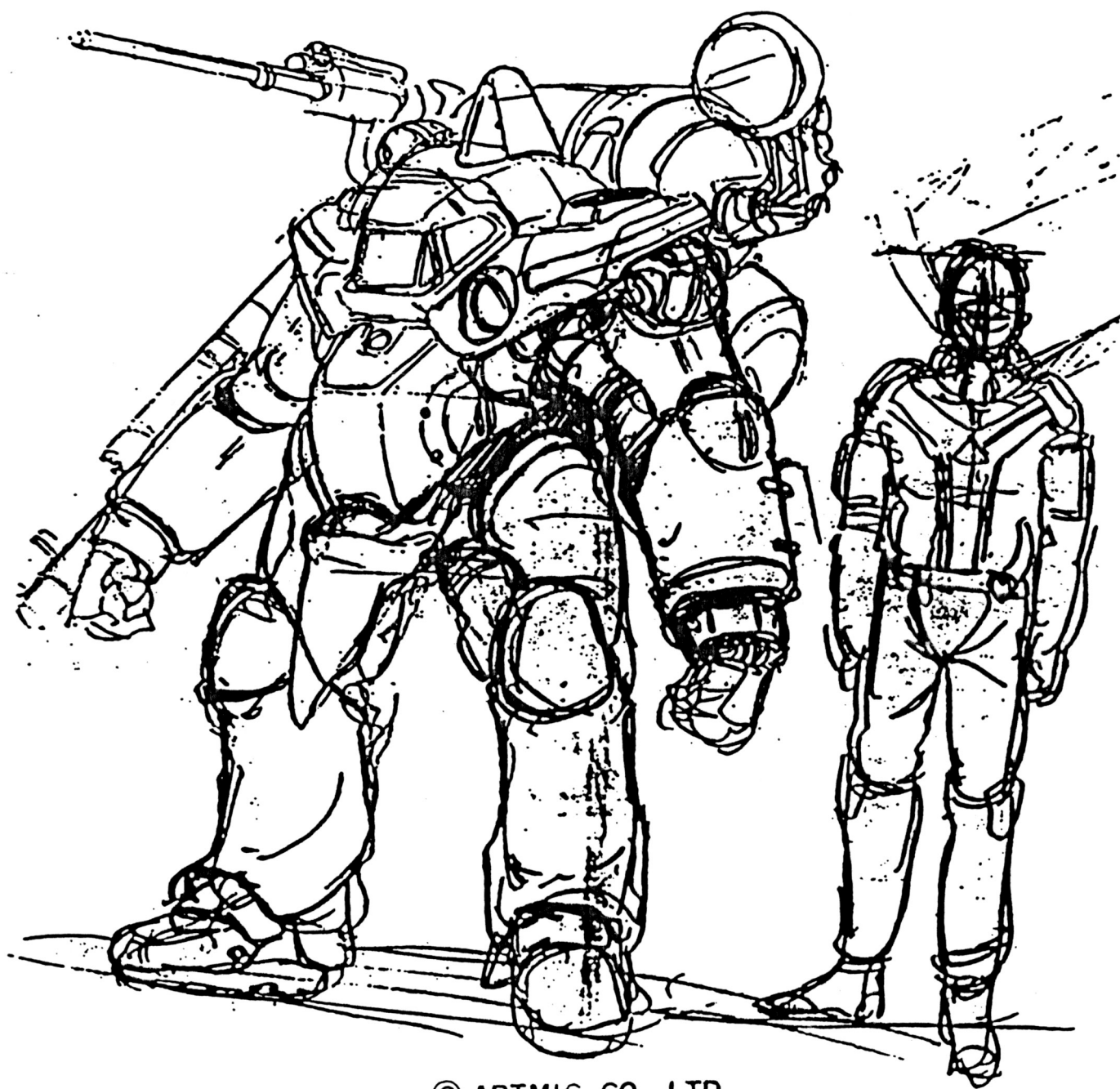
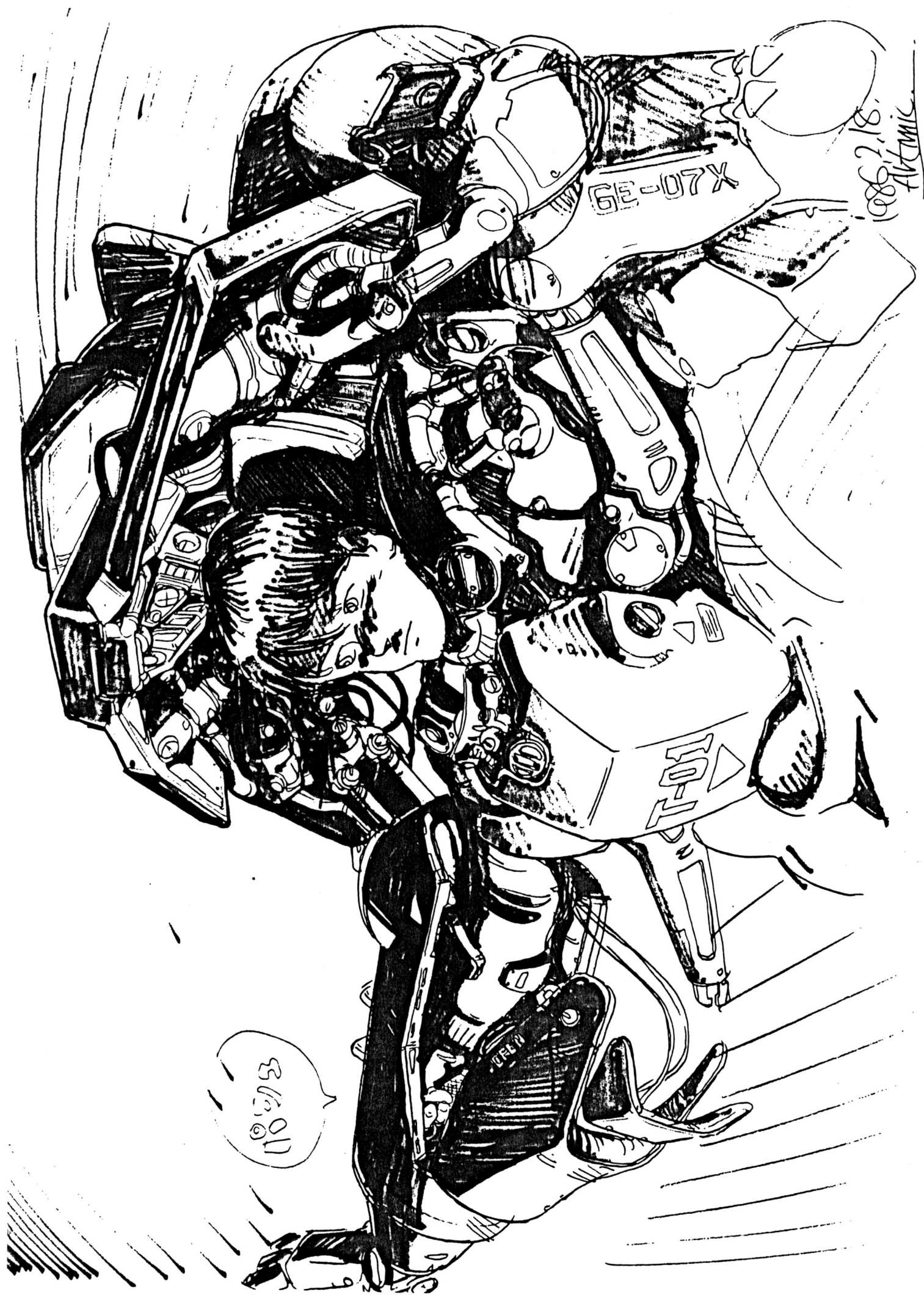
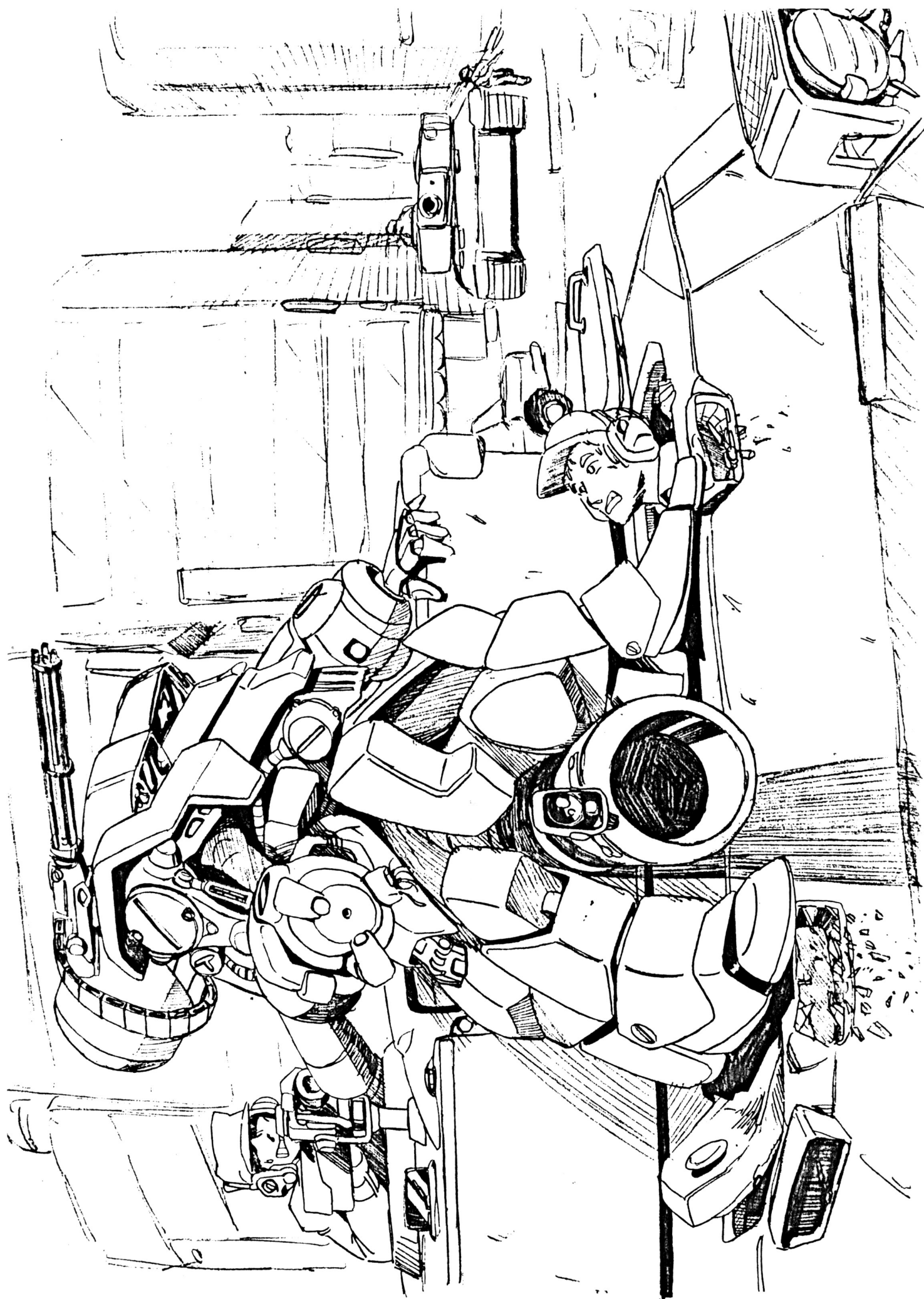
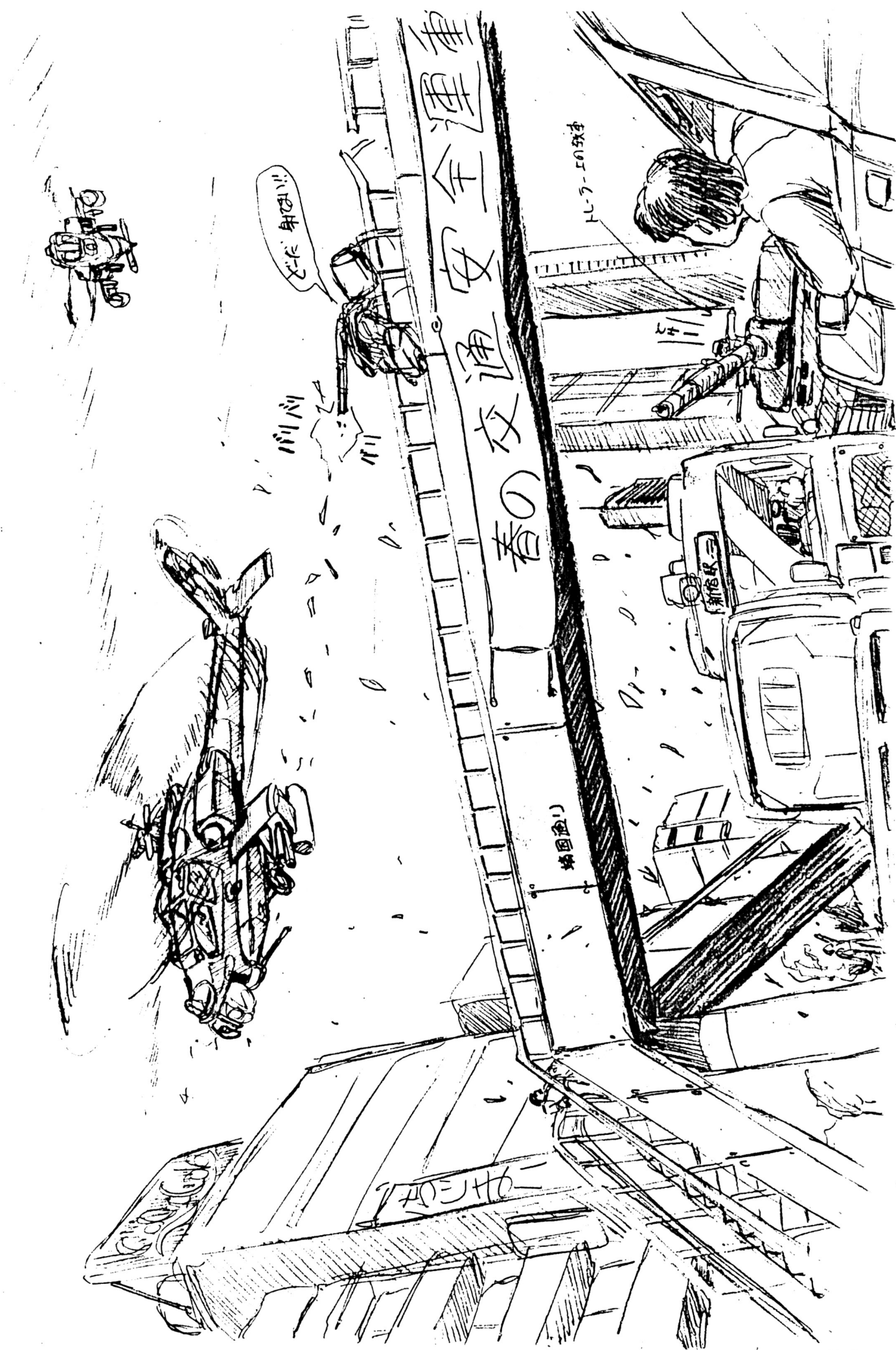
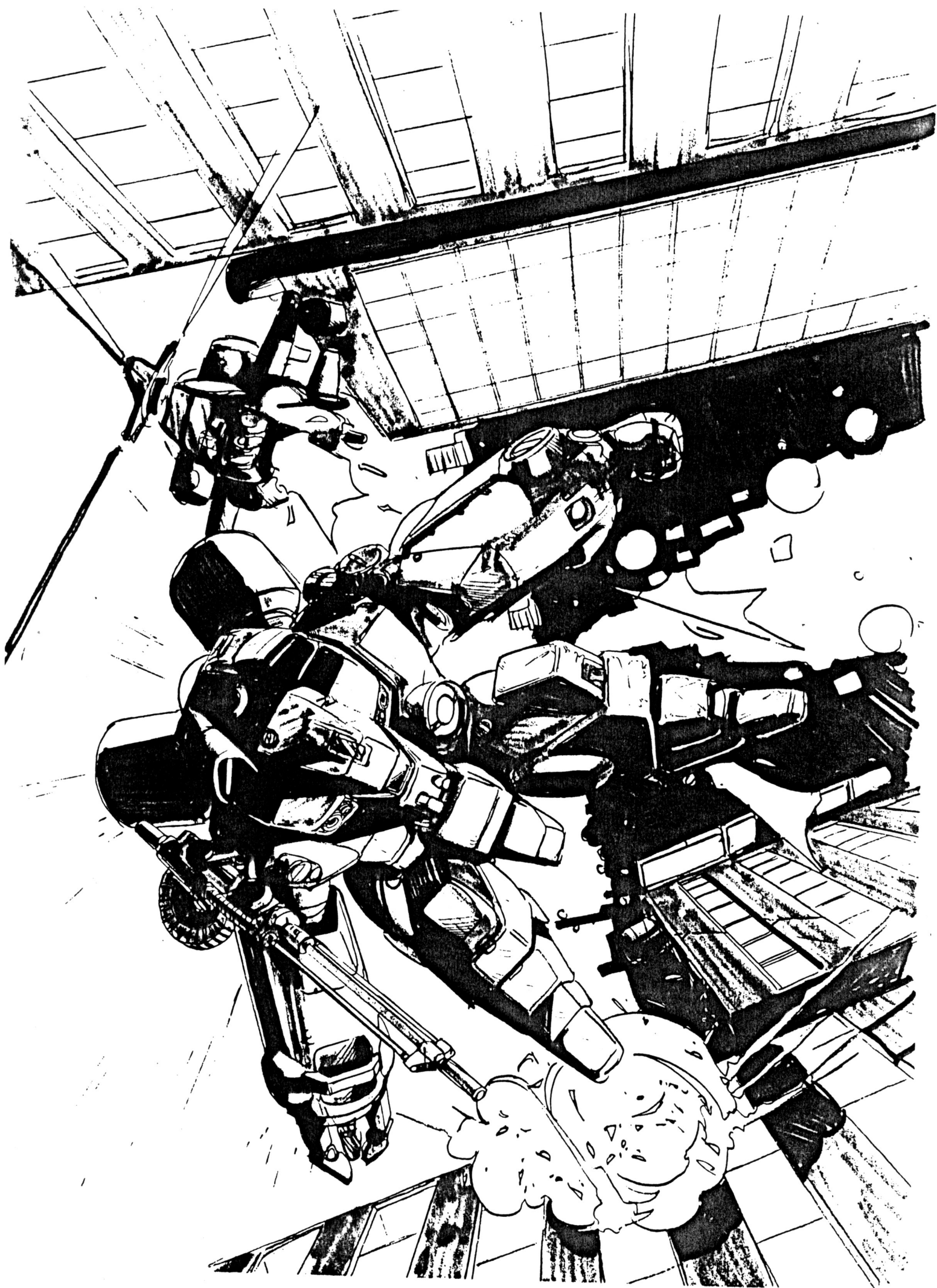
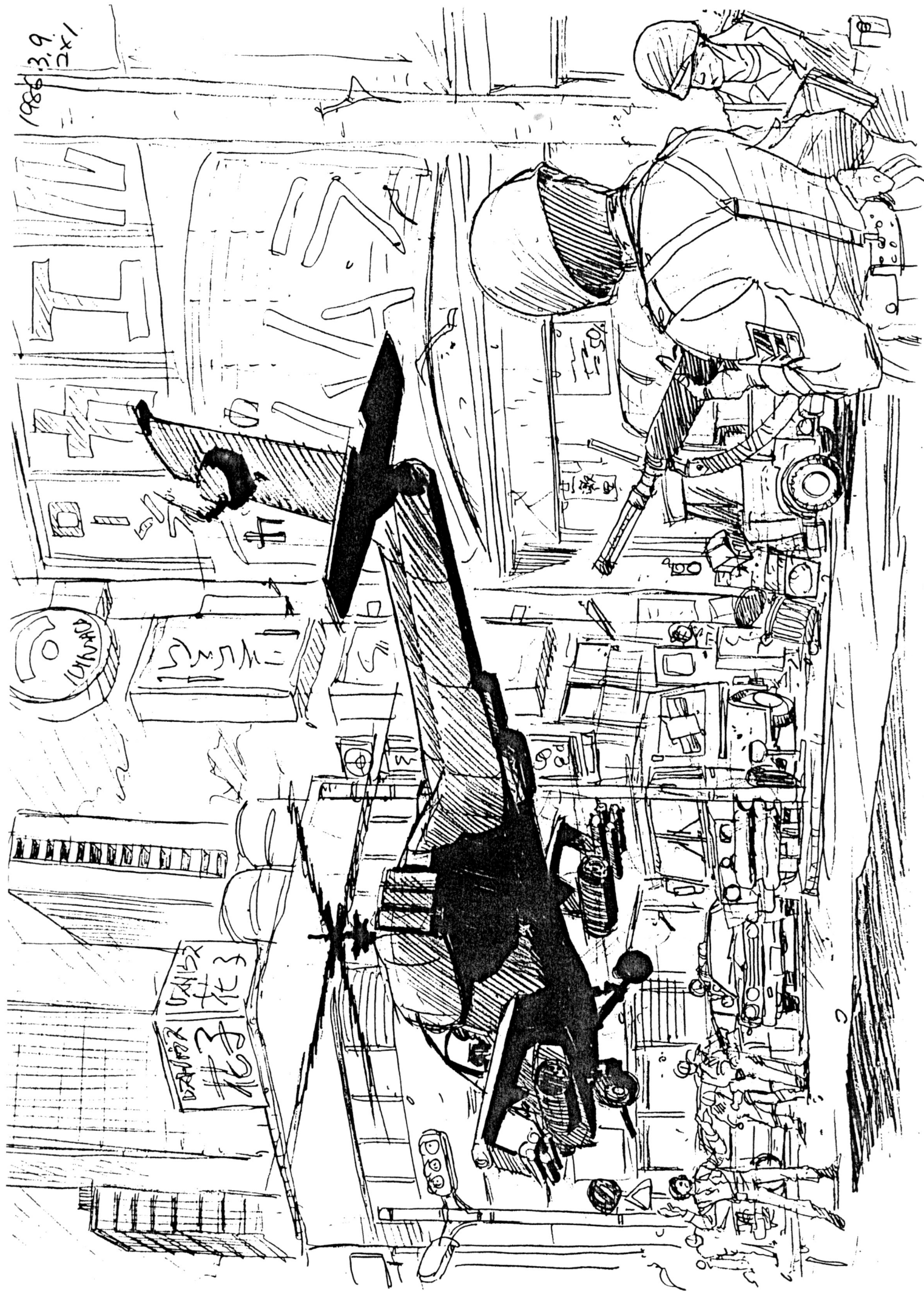
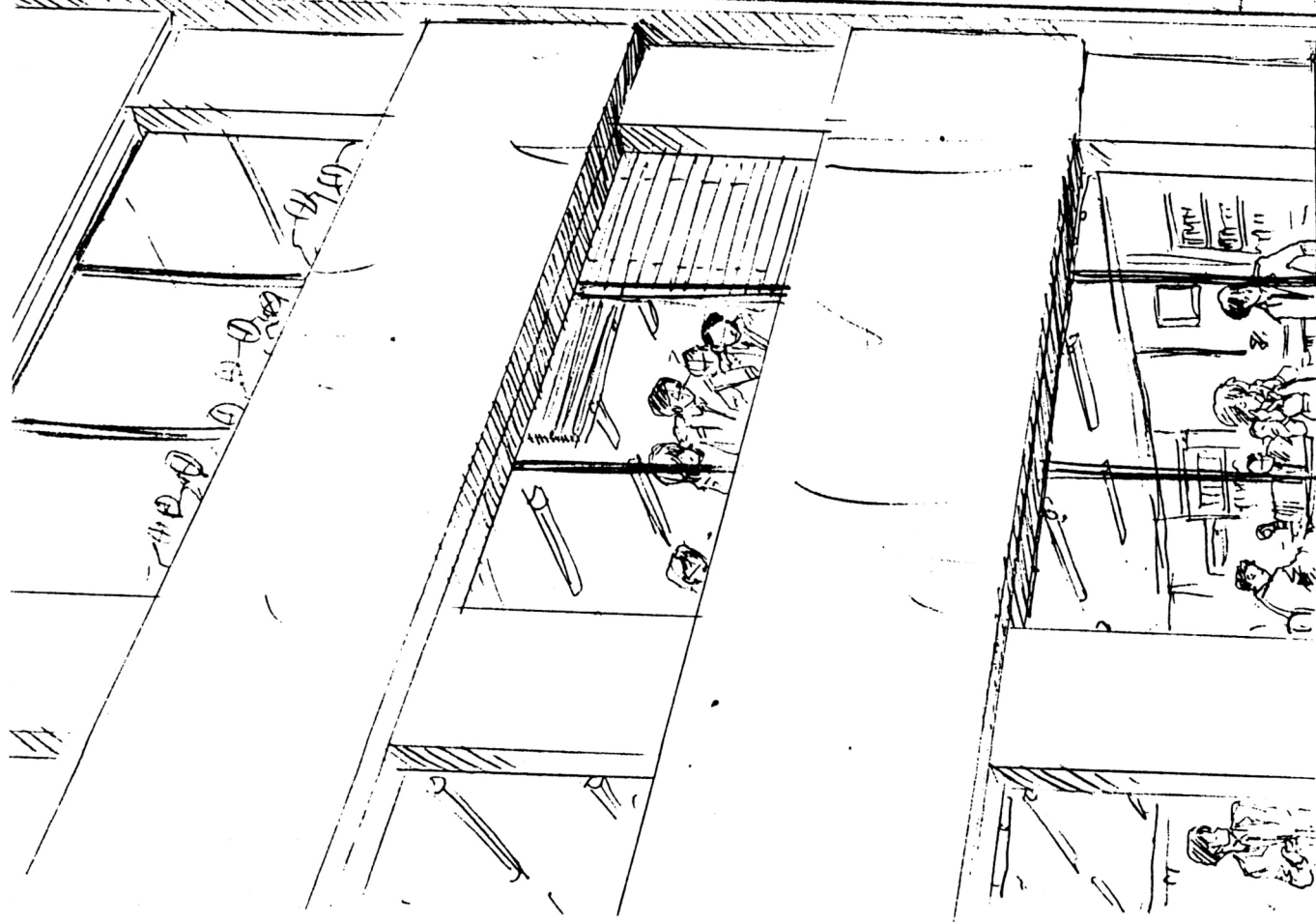
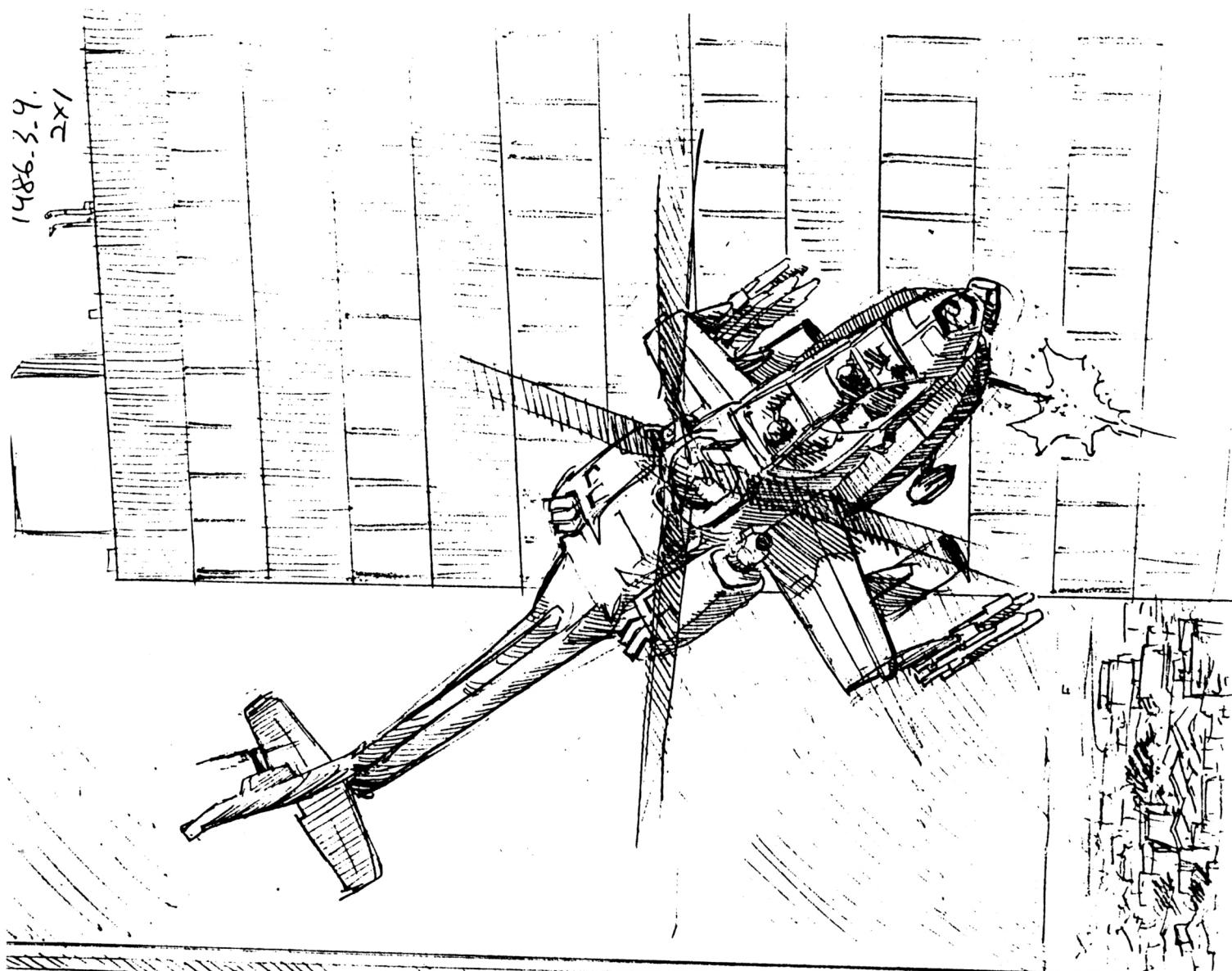
○その他

ME-07 METAL SKIN
MADOX-01

TV. ANIMATION PLANNING & TOY DEPT
ARTMIC CO., LTD.
R N. 404. JARUDAN KICHIJOJI 1-28 3,
HONCHO KICHIJOJI MUSASHINO CITY,
TOKYO 180 JAPAN PHONE:(0422)21-1068

61 1 13

TV. ANIMATION PLANNING & TOY DEPT
ARTMIC CO., LTD.
R. N. 404. JARUDAN KICHIJOJI 1-28-3.
HONCHO KICHIJOJI MUSASHINO-CITY.
TOKYO 180. JAPAN PHONE:(0422)21-1068

どーだ 射てない!!
バリバリ
バリ
春の交通安全運動
靖国通り
トレーラー上の戦車
新宿駅

バタバタ
止まれ
み…見えないよー
1986 2.28
Artemis

1986.3.9.
2x1

1986.3.9

Plan and Design Document

METAL SKIN PANIC PART 1

Planning: ARTMIC Co., Ltd.

Military Fantasy.

This term is defined as follows:
An emergent genre of modern fantasy tale set against a backdrop of advanced military technology.

Mecha rendered in painstaking detail operate in sync with the beating heart of the humans that control them, bringing forth an incomparably thrilling action-drama that presents the ultimate path of existence for mankind and machine.

Metal Skin Panic is a high-potential story designed to lead the way for the future of original animated works.

[Title]	Metal Skin Panic
[Format]	Original Animated Movie/OVA
	45 min. One-shot
[Target Audience]	General anime fans, primarily middle school ~ college-aged
[Genre]	Military Fantasy (Modern-Day Hard Sci-Fi)
[Writer]	Shinji Aramaki
[Planning]	Toshimitsu Suzuki
[Production]	ARTMIC

[Selling Points]

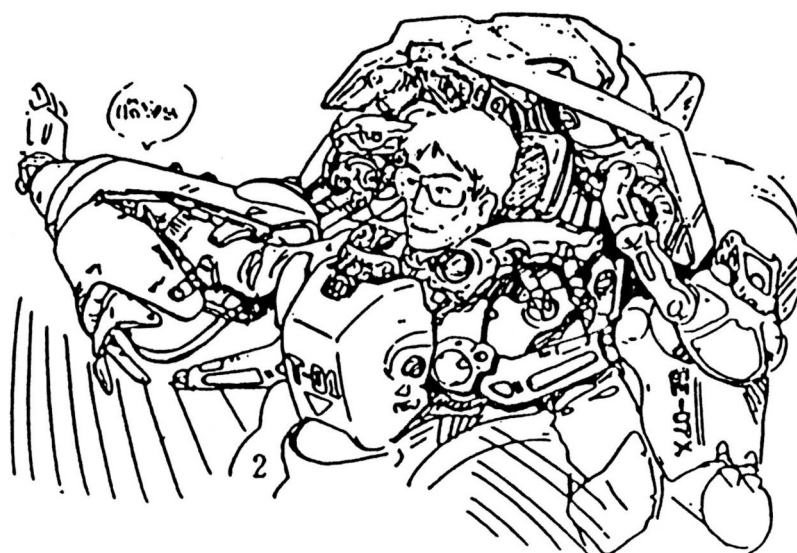
☐ The main draw is the finely detailed mechanical drawings and a setting that takes a bold look at a plausible-seeming future mere steps away from the present.

A Japan forced by the current state of affairs to manufacture their own weaponry, an America that twists their arm with ludicrous demands... profit-hungry corporations who produce ridiculous gadgets, and engineers driven by a single minded passion for inventing them. Their intertwining affairs set the stage for this story and give it a sense of realism and weight.

☐ A protagonist living a vagrant life in a huge metropolis, the yakuza who live by their strict code of morals, the entertaining yet lonesome relationships of female escorts, and the fruit less blossoms of the modern era.

In this golden age of mass-communication, the ideas of a single individual can elicit gasps of amazement from citizens across the globe. Anyone, no matter who, could transform into the hero of this work (Koji) just by being in the right place at the right time. I strongly believe that keeping these parallels in mind during the creative process will produce a cathartic experience that provides the viewer with vicarious thrills.

☐ Why the Kabukicho Wars concept? The answer is: because the infamous red-light district of Shinjuku is a melting pot for humankind, the most earthly place in all of Tokyo.

When envisioning a neighborhood swept up in the latest fashions, that feels far removed from world affairs, and where the crowds are so dense that people would walk past a real Metal Skin Suit as if it were nothing unusual, there's nowhere more fitting than Shinjuku and Kabukicho, and the art should immediately bring those places to mind.

[Plot Outline]

☐ OPENING (6~7min)

In the style of *Six Million Dollar Man* or *Bionic Woman*, we cut between a computer screen flashing “TOP SECRET” and brief documentary style shots of the development of the power armor (Metal Skin) as the title sequence plays.

(Composition Plan)

- ☐ Pan continuously while overlaying shots of CAD/CAM data and design/layout programs, testing the strength of the skeletal frame, testing if the manipulator is operational, sensor locking down on a target, etc.
- ☐ Finally, the Prototype Unit 1, code-name ME-07 is completed. Its nickname is the Metal Skin MADOX-01.

In a temporary city structure erected in the JSDF Fuji Maneuver Area (in Aokigahara Forest), government officials, overseas emissaries, and top-class military officers look on in awe as a brawny foreigner maneuvers the MADOX-01 in an up-close demonstration.

When night falls, the MADOX-01 is broken up into parts, packed in boxes and loaded into a carrier. The carrier dashes out onto the highway at full-speed. Suddenly, however, the driver of a large transport vehicle in front of it falls asleep at the wheel and the two trucks collide in a spectacular crash! The MADOX-01 is flung from the overpass, and falls by pure chance into the bed of a waste management truck driving on the road below. Startled, the driver comes to a sudden stop, but surmises that it’s just the shock of the accident causing him to see things. He hops back in the driver’s seat and hurries along to his place of work...

☐ Switch to next morning. We see a birds-eye view of a peaceful Tokyo suburb (specifically Kichijoji). Here, many miles from the town he grew up in, there resides a ronin student who is studying to retake his college entrance exams after a failed first attempt. Trudging through each day stuck in dead-end part-time jobs, he’s a man with no hope of getting ahead. Among his many misfortunes are back-to-back run-ins with yakuza, constant screw-ups at his job... He could be summarized as “a shallow, small-minded guy with no real aim in life”. As one could guess, he also has poor luck with the ladies and his parents have given up on him completely.

☐ His name is Koji Hinomoto. His driving forces are stubbornness, impulsivity, and shortsightedness that stem from his various pent-up grudges... in other words, an excess of pointless negative energy. (Imagine a college-aged Tora-san [from the *Otoko wa Tsurai Yo* series of movies].) Koji has been working part-time at a nearby auto repair shop for the past several weeks. As usual, he’s loading junk parts onto a small truck to take them to Onose, who works at a scrapyard in Komatsugawa.

☐ Onose deeply contemplates the busted-up MADOX-01 parts in front of him, which came loose from their packaging.

“Are you kidding me!? Who’s the wise guy that threw all this onto my truck?” he grumbles. Onose, a civilian, can’t recognize the dismantled parts of the power armor in front of him as anything more than a bewildering hunk of junk. Koji arrives on the scene.

☐ The MADOX-01 catches Koji’s eye. Onose, however, doesn’t want anything to do with what is by all appearances just a freaky industrial robot. With a sneaking feeling that this can’t end well, he hands the Metal Skin MADOX-01, a newly developed top-secret prototype and several-billion dollar government investment, over to Koji... for free.

☐ Cut to a few days later, where Koji has isolated himself in the narrow 9x9 bedroom of his run-down apartment in the far corner of Kichijoji. He's puzzling over manuals with a dictionary to try and reassemble the MADOX-01. Scattered around are tools he borrowed without permission from the repair shop — plus porn mags, trashy magazines... you get the idea. It wouldn't be a stretch to call the place a garbage pit.

☐ On the torso of the MADOX-01, which is suspended in the air by rope, a dashboard spits out a bunch of gibberish codes in red and yellow letters. "What was a machine like this doing at Onose's place anyhow?" "Who on earth built this thing, and what for?" — such doubts float across Koji's mind on occasion, but they do little to stifle the burning zeal swelling inside him. He's so hell-bent on restoring the power suit that he's unconcerned about getting sacked from his job and work for days on end without food or drink. In his mind, the MADOX may as well be his very own invention. He doesn't need any unnecessary info on its origins, and isn't particularly keen on finding out.

☐ The ME-07 Metal Skin MADOX-01 is the masterwork of Koji Hinomoto, a man who's been called useless for as long as he's lived — his magnum opus in the making!

☐ In spite of the fact that Koji has earned the ire of the entire apartment complex with the constant nightly racket (a fact that is lost on Koji), the MADOX-01 is completed. The gigantic power suit resembles a sort of enchanted puppet that dominates the entire floor space of Koji's room. With anticipation and worry, Koji climbs into the MADOX-01 and cautiously presses the switch.

It activates! "Un-freaking-believable!! This is straight out of a sci-fi flick!" Koji dances for joy. In an instant, he's become the single most powerful man on the planet!

☐ The scene shifts to the top floor of a high-rise building in western Shinjuku. A meeting room is occupied by a group of men with grave expressions, engaged in deep discussion.

☐ The participants are a senior official of the D.I.A. (Pentagon: U.S. Dept. of Defense), Prime Minister Nakane, JSDF officials, and the president of the top manufacturer of industrial robots and semiconductors: Kawarasaki Heavy Industries.

☐ The D.I.A. official angrily shouts in English: "This is a disgrace! You're telling me you don't know where the ME-07 is!? We have to find and recover it by any means necessary!" For the meeting's participants, failure to recover the MADOX-01 goes beyond a life-or-death matter. It could set off international tensions and even escalate into an all-out war. If the prototype were to fall in the hands of a hostile nation, then—

☐ The Prime Minister grumbles under his breath."I only wound up in this mess because I fell for all that sweet-talk about relaxing trade tensions! And those pricks at Kawarasaki got totally carried away making such a dangerous weapon!!" He puffs fruitlessly on a cigar. Spread out atop the table are schematics for the MADOX-01 and various documents underlining its capabilities.

☐ Back to Koji Hinomoto. With little clue as to what his high-performance power armor actually is or does, he stamps around his filthy (but fortunately first-floor) apartment and pages through the manual while running various tests with the unit's dashboard display.

(Composition Plan)

☐ MADOX-01 is a mecha that's controlled by the thoughts and feelings of the one who operates it (ACTION BY THINK). Detailed consideration should be given to the structure of its internals to make it as realistic as possible.

☐ The display reflected on the visor glass, the movement of the target-tracking auto-cannon, the sound of the spinning motor, the status of the lift support system, the hiss of air pressure leaking from the suspension — use tracking shots to follow these processes as the MADOX-01 is initialized.

☐ “There’s nothing I can’t do with sucker on my hands! Time to show those jerks who’s boss!” Koji already has a target in his sights. Some time ago at his job, he fell hopelessly in love at first sight with a girl named Shiori Nagura. However, she currently works as an escort in Kabukicho, the red-light district of Shinjuku. Shiori is a free spirit who’s working of her own free will, but in Koji’s naive eyes she’s tragic maiden dragged into the underworld by deceitful yakuza.

☐ Koji’s gets more pumped up by the second. When his ego can’t get any more inflated, he at last puts his finger on the power switch. MADOX-01, ACTIVATE!

A single fire of the thrusters reduces the dilapidated building to a pile of dust.
Giving the smoking wreckage a sidelong glance, he hollers “Well, can’t fight on an empty stomach!” and smashes his way into the 7-Eleven in his MADOX-01. Koji’s having the best day of his life! With his spirits high, he and his MADOX-01 march off to Kabukicho along with a cacophony of blaring sirens.

☐ Passersby look on in shock and dismay at the clumsy maneuvers of Koji’s machine.

Koji leaves rubble in his wake as he crashes through subway stations, underground malls, building interiors, housing complexes, and the police cars that just won’t quit badgering him for some reason. By the time night falls, he’s on the lam with authorities hot on his tail. The communicator installed in his metal skin, his sole means of making contact with the outside world, is tuned to FEN [Far East Network, an American military broadcasting station] and he cheerfully jams along to rock and roll while wreaking havoc all around him.

☐ Finally, he arrives at Kabukicho, a dazzling borough of brilliant neon lights. The MADOX-01 nonchalantly strolls through the crowd. The mob is apathetic to its presence. The most anyone does is glance at the sensors, going “Huh, now what could that be?” It would seem that to the residents of Shinjuku, even a suit of metal power armor is nothing spectacular!

☐ “Found the place!!” Koji stalls his MADOX-01 in front of a brothel. Taking a deep breath, he once again puts his finger on the power switch. MADOX-01, ACTIVATE!

The mob of onlookers are taken aback — they had taken the motionless suit to be a prop for a Toei production or a paper-mâché sculpture. The curtain rises dramatically on the Kabukicho Wars!

☐ Koji levels the building and rides off with his hot property (Shiori) in tow as police squadrons, TV news crews, and ticked-off yakuza follow along in pursuit. His advance is cut off by none other than Prototype Unit 2, code-name ME-08 — A.K.A. the MADOX-02!! Piloting the machine is Kawarasaki Heavy Industries’ stunningly gorgeous female engineer Ellie Kusumoto.

Meanwhile, Shiori, who was living the sweet life raiding the pockets of gullible men, has now been kidnapped by the clueless Koji, and rants unintelligibly inside the cramped cockpit of the MADOX-01...

☐ A show at the Koma Theater is flattened, pachinko parlors are blown to bits, and all of Kabukicho is thrown into panic and disarray. Before Koji knows it, the sky above Shinjuku is blacked out with droves of attack helicopters!! MADOX-01 steals away into the night. Stay tuned for more!

*[**Editor's Note:** The page numbers from this page on don't match the earlier plot summary pages and the formatting is slightly different. I'm unclear if they were from a different pitch document, but they've been formatted to match the earlier pages for this English translation.]*

☐ The rear door of the truck flies open, and flickering lights pierce through pitch blackness and billowy white smoke to reveal the silhouette of the MADOX-02.

☐ Police vehicles along with JSDF armored trucks and tanks encircle Kabukicho.

☐ Face-off with the MADOX-02 —

*[**Translator's Note**: For some reason Ellie is referred to as Eriko from here on out, even though her profile never mentions the name. I'm keeping it as Ellie to avoid confusion.]*

☐ The two come to blows in a hand-to-hand melee interspersed with rapid chain gun fire. The #02 operates smoothly and efficiently in stark contrast to Koji's daredevil style of reckless assault.The fight is close, as Ellie's mech is handicapped by its lack of fine-tuning, rendering it unable to keep up with her own speed. However, Koji has his own disadvantage in his need to ensure that Shiori is unhurt during the showdown. What puts the battle in his favor is the feedback support system of the MADOX which has completed its analysis of Koji's thought processes and is now working in perfect sync. Koji rolls with the punches and continues his crusade (by fleeing for his life). Ellie is feeling the heat and grows impatient, knowing time is short.

☐ In mere moments, Kabukicho has transformed into the stage of a small-scale war with rubble as far as the eye can see. Koji runs out of ammo and counters by snapping a metal signpost to use as a polearm, then tearing a door off a parked car to use as an improvised shield. The #02 is unable to retaliate as Ellie does not want to damage the #01. Keen to the fact that Koji is fighting for Shiori's sake, Ellie tries to strike a bargain by guaranteeing the couple's safety — with the caveat that he give the mech up quietly. Understanding dawns on Koji. One small push may be all it takes to put a stop to the berserk MADOX.

☐ Desperate and thinking on her feet, Ellie delivers the most compelling speech she can muster.

☐ She makes a good point! Koji seems satisfied. However...

Shiori, who in spite of her previous attitude is now drunk off the mayhem, goads Koji on. She shrieks"don't trust a word out of her mouth!!" — but when it looks like things are about to get ugly between the two girls, more pressing matters arise.

In the blink of an eye, a squadron of roughly 5 to 6 Apache helicopters flies onto the scene. Without braking to a stop, the Junior Lieutenant Kilgore [***Editor's Note:** In the character descriptions below, this character is named "Max Krueger."*] sprays bullets in every direction. "Shoot! I was so close...!" Ellie laments, quaking in fear. Koji and Kilgore are locked in combat, taking them across the tracks of the Japan National Railway and into a high-rise complex in western Shinjuku. (Or they already ended up there during the clash with #02, either way is fine.)

☐ Koji goes completely postal, jumping atop skyscrapers, climbing onto walls, busting up glass windows and leaping from building to building.

☐ The Apache helicopters take off in a scene reminiscent of *Apocalypse Now*, lights flashing as they march across the sunset to the sound of a bugle call.

☐ We see numerous scenes of TV news crews, the showy flyover of the helicopters, and the ominous approach of the Apache. (All over the background of a burning Shinjuku)

What should Shiori and the #02 be doing at this point? I suppose Koji heroically leaves her

behind and runs off to fight his battle alone, dropping a line like "I'll come back for you, I promise." — something to that effect. By this point Shiori's come around to Koji so she responds with a hug. We could have it be a King Kong kind of deal too. "Use me as your shield, or else they'll kill you!!"

☐ We should probably think about how to tie up the loose end of the #02.

☐ Maybe Ellie ejected herself after succeeding in her negotiation with Koji and it's non-operational, maybe Kilgore wrecks it in a surprise attack...

☐ The battle between Kilgore and the MADOX ramps up to a fierce climax. Kilgore pays no heed to his orders or even to his own welfare as sheer hatred is all that drives him. He continues to relentlessly dog down the MADOX in his Apache. (Kilgore is not in the pilot seat, but in the gunner seat.)

☐ Eventually, the supply of combustible pellets that fuel the thrusters of the MADOX is depleted. He ends up between a rock and a hard place, stuck atop the roof of a towering skyscraper with the enemy still in pursuit. He tosses empty chain gun units to the side one by one as he attempts to slow Kilgore's approach.

☐ In a last-ditch gamble, Koji leaps at the Apache. Kilgore holds on tight and tries to shake him off, but the engine and rotor go kaput and both machines take a nosedive towards the ground. In the nick of time before they both plummet to their deaths (the MADOX still can't use its thrusters), Koji pounds the eject button, which deploys a parachute. The Apache and the empty husk of the MADOX crash into the ground below, a tremendous explosion occurring on impact.

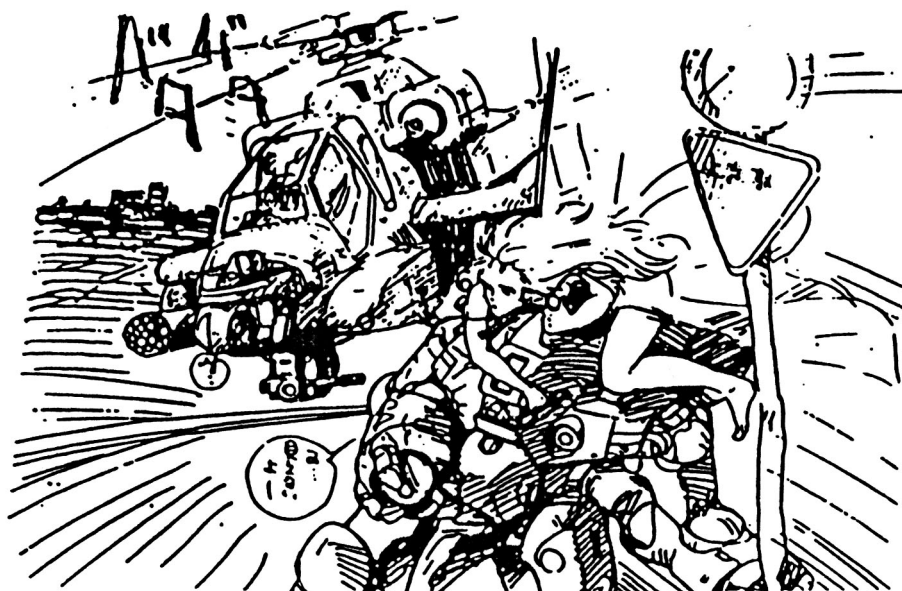
☐ During the descent, Shiori spectates from the fire escape of one of the skyscrapers and screams in horror at Koji's apparent demise. When she sees the parachute, though, she breathes a single sigh of relief while crying tears of joy.

☐ (The sky has gradually gotten brighter and brighter since the start of the battle in the heart of Shinjuku.)

☐ The final scene takes place in Shinjuku at sunrise (clouds of black smoke rise through the air and distant sirens can be heard, byproducts of the conflict of mere moments ago), and the roughed-up and weary couple of Koji and Shiori depart on their way.

☐ Cut to credits over a slideshow of police and JSDF members dealing with the aftermath of the incident. (black and white, like newspaper photos)

News about the incident is typed out letter by letter below the credits roll — the government has succeeded in covering up all information relating to the MADOX and the U.S. army presence.

☐ Once the credits wrap up, we can see the MADOX lying on its side in what looks like a sewer, evidently driven underground by the force of the impact. The bashed-in mech, drained of energy, won't live to battle again...or so we think, but then we hear a "beep" as the power indicator illuminates, the hum of the actuator is heard, and the unit stands to its feet. Diagnostic text runs across the visor display... And so it ends.

“Ack...” “I-I can’t see!”

[Character Profiles]

Koji Hinomoto, Age 19

- A student attending preparatory lessons for his second attempt at college entrance exams. Lives in a one room, 100 sq. ft. apartment in Tokyo.
- As one would expect of someone hoping to enroll in the science department of a top-level university, he’s well-versed in matters of science and physics. He also fiddles around with computers on occasion.
- Huge fan of anime and sci-fi films. He owns two hi-fi video cassette players (a Beta Pro and an F-11) and has recorded over 100 tapes. However, he only owns a cheap 14-inch television.
- Obsessed with mechanical gadgets and military tech. Whenever a plane flies over head, he’s sure to make a remark like “that’s a Yokota C-130 Hercules” or “oh, an entry-level C-1” and check it off a list.
- In any case, he’s tragically prone to jumping to conclusions, and upon obtaining the MADOX, he surges with misplaced self-confidence, gets drunk off power, and begins to see himself as a valiant defender of the peace.

*[**Translator’s Note:** All of Koji’s dialogue in the script so far has been written in a Kansai dialect, which matches his characterization as a bumpkin trying to stick it out in the big city. Not the case for the squeaky-clean Koji in the final cut, who speaks in standard Tokyo dialect.]*

Shiori Nakura, Age 17

- An escort employed in the red-light district at a quote-unquote massage parlor called Twilight Zone. Though it’s all about the money at the end of the day, she nevertheless enjoys it a fair amount. A self-driven woman and product of the times.
- She has no glum feelings about the nature of her work, and in fact is quite happy-go-lucky — but she’s nobody’s fool, and will often interject into a conversation with surprisingly astute wisdom. She’s a woman who’s always one step ahead and whose disposition can change on a dime.
- She has a flair for the dramatic and is always more than thrilled to be dragged along to wherever a fascinating spectacle is found.
- The MADOX incident is no exception. At first, the exploits of the gravely misguided Koji are nothing more than a big nuisance to her, but she’s gradually won over by Koji’s determination and combat skill. She starts out desperate, then becomes jubilant, and finally, decides to cause some mayhem of her own by egging Koji and leading the impressionable boy to catastrophe. And in spite of all that, when the fight is over, she nonchalantly flashes a sweet smile and all is forgiven... what a woman!

Ellie Kusumoto, Age 21

- An engineer on staff for Kawarasaki Heavy Industries Special Development Project 044.
- The lone female member of the MADOX development team, a scientist-cum-pilot.
- The leading developer of computerized avionics software, she's gifted with both beauty and brains — but she couldn't be less interested in any topic other than engineering, so she's a tad lacking in common sense.
- Has poured her heart and soul into the MADOX project. It wouldn't be an overstatement to say that her infatuation with the MADOX borders on romantic affection.
- To recover the MADOX in one piece and prevent the incident from going public, she takes off in the MADOX-02 (a sister unit which has only just been completed, and therefore has not yet undergone balance checks for things like software functionality, armaments, and driving mechanisms).
- However, her insistence on ensuring that the Metal Skin is unscathed ends up being her Achilles' heel, and several chances to stop the rampage slip through her fingers as a direct result of her hesitancy.
- Despite all this, her skill as a pilot shines through even at the reins of the flawed MADOX-02, and she's unfazed by Koji's fast-and-furious combat style, eventually managing to chase him into a corner.

Lt. Edgar Pointer, Age 35

- Engineering officer in the U.S. Armed Forces
- Deployed at Kawarasaki Heavy Industries to oversee the development of the Metal Skin.
- He's been an important commanding force behind the Metal Skin project from its inception, and consequently is all too familiar with the offensive capabilities of the unit and its indispensability to the army. He attempts to reason with officer commanding the combined U.S. and Japanese forces dispatched in Shinjuku, warning him that to antagonize a foe possessing the Metal Skin would be a foolhardy mistake, but he's rebuffed and left with no recourse other than spectating from behind the scenes.
- Plays a similar role to that of Rambo's superior officer in the Green Berets from Rambo and Rambo 2.

Lt. (j.g.) Max Krueger, Age 32

- Commands a squadron of AH-64 Apache attack helicopters associated with a U.S. Marine Corps assault ship docked in Yokosuka.
- A veteran soldier who's been flying attack helicopters since the Vietnam days. Wherever there's a battle brewing, you can bet he'll be leaping headfirst into the action. He's a man who lives for the thrills of combat.
- Has earned himself the nickname of "Mad Dog Max".
- He's firm in his belief of the superiority of his helicopter squadron, and the MADOX demonstration at the start of the script does nothing to change his mind. He views the MADOX as an obstacle in his path, contradictory to his purpose as a soldier and by extension his very existence. As a result, he has a nasty grudge directed at the metal skin. "Tch! Talk about a chintzy bag of bolts."
- Plays a role comparable to Lt. Kilgore from *Apocalypse Now*.

[Notable Mecha and Vehicles]

- ME-07 Metal Skin (MADOX-01)
  A suit of power armor commissioned by the American D.I.A. and the fruit of many grueling efforts on the part of Japan's leading manufacturer of industrial robots/semi conductors. Designed with the preferences of foreigners in mind.

- ME-08 Metal Skin (MADOX-02)
  A sister unit developed in tandem with the MADOX-01 without the knowledge of the U.S. government, for use by the JSDF.

- Armored Attack Helicopter (AH-64 Apache)

- Attack helicopter for U.S. Army soldiers

- Type 74 Battle Tank

- Police cars/motorcycles

- And more...